

平成 2 5 年度 市政レポーター(とまレポ) 活動報告書

平成 2 6 年 1 0 月

苫小牧市総合政策部政策推進室市民自治推進課

目 次

苫小牧市市政レポーター制度について	1
平成25年度市政レポーター活動実績	2
委嘱状交付式及びその他会議概要	3
市長との懇談会（第1回）	4
市長との懇談会（第2回）	6
市長との懇談会（第3回）	9
レポーターからの意見と市の考え方（要旨）	12
附録	
平成25年度市政レポーター名簿	22
苫小牧市市政レポーター設置要綱	23

苫小牧市市政レポーター制度について

市政レポーター制度は、市政に関する御意見や御提案をいただき、市政運営の参考とすることを目的とするものです。平成24年度からは、これまでの「市政モニター」という名称から「市政レポーター」（通称 とまレポ）という名称に変更しています。

平成25年度は「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」及び「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」をテーマとして、レポーターの皆様に関連イベントへ参加いただくとともに、御意見や御提案をいただきました。

そのうち、平成24年度に引き続きテーマとした「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」については、平成25年7月に有料化を迎えて、有料化への移行及び大作戦の取組に対して、おおむね肯定的な評価をいただきました。

また、「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」については、大作戦をきっかけに苫小牧における港の存在を見直す機会になったとの感想をいただきました。レポーターの皆様は、改めてお礼を申し上げます。

本報告書は、平成25年度市政レポーターの活動を取りまとめたものです。今後もいただいた御意見を基に、より良い市政運営を進めていきたいと考えています。

平成25年度苫小牧市市政レポーター活動実績

開催日（場所）	活動内容	概要
平成25年5月1日 （苫小牧市役所）	委嘱状交付式 及び説明会	・市長からレポーターへ委嘱状を交付 ・事業概要の説明
平成25年6月	とまレポ通信 Vol. 1 発行	・対象事業についてレポーターへ通信を発行 ・イベント等への参加のお知らせ
平成25年8月7日 （苫小牧市役所）	市長との懇談会 （第1回）実施	レポーターと市長との懇談会を実施 ・「ゼロごみ大作戦」の関連イベントについて ・ごみ有料化及びごみの分別について ・「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」の取組みについて
平成25年9月	とまレポ通信 Vol. 2 発行	・対象事業についてレポーターへ通信を発行 ・イベント等への参加のお知らせ
平成25年12月3日 （苫小牧市役所）	市長との懇談会 （第2回）実施	レポーターと市長との懇談会を実施 ・「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」の取組みについて
平成26年1月	とまレポ通信 Vol. 3 発行	・対象事業についてレポーターへ通信を発行 ・イベント等への参加のお知らせ
平成26年3月	意見書提出	レポーターからの意見書の提出

委嘱状交付式及びその他会議概要

1 委嘱状交付式

- (1) 日 時 平成25年5月1日(水) 午後3時30分～午後4時
- (2) 場 所 市庁舎5階 第1応接室
- (3) 出席者 市政レポーター5人
- (4) 内 容 ①市長から委嘱状を交付
②レポーターの自己紹介
③市長と懇談

2 レポーター事業説明会

- (1) 日 時 平成25年5月1日(水) 午後4時～午後4時30分
- (2) 場 所 市庁舎7階 国際交流サロン
- (3) 出席者 市政レポーター5人
- (4) 内 容 ①制度概要及び活動内容について説明
 - ・「ゼロごみ大作戦～ステージ3」について
 - ・「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」について②質疑応答

3 市長との懇談会

- (1) 日 時 ①第1回 平成25年8月7日(水) 午後3時～午後4時10分
②第2回 平成25年12月3日(火) 午後3時～午後4時12分
③第3回 平成26年3月28日(金) 午後3時～午後4時10分
- (2) 場 所 市庁舎5階 第2応接室
- (3) 出席者 別紙のとおり
- (4) 内 容 別紙のとおり

市長との懇談会（第1回）

1 日 時 平成25年8月7日（水） 午後3時～午後4時10分

2 場 所 市庁舎5階 第2応接室

3 出席者 市政レポーター5人

4 主な意見

（1）「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」について

○ごみの有料化について

- ・比較的円滑に移行したと思う。

○不適正排出について

- ・アパートで回収日以外に出されたごみをよく見る。不適正排出をどうするか。

（市長）最初の1年は、ごみの排出、分別、基本的マナー、モラルの問題について、一定の時間をかけて分析や評価を行い、対策を講じることが必要と考えている。集合住宅と一戸建て住宅街での状況は元々異なっているが、集合住宅のゴミステーションの対策をどの様に行うべきなのか検討が必要と考えている。

（減量対策課長）平成24年4月から「ゼロごみ大作戦」について市民周知を進めた。きめ細かな周知のため、300回の説明会と1万人への周知を目標とした。結果として、ごみ有料化までに487回の出前講座と市民常設説明会を実施して、20,832人の方に参加いただいた。今後も適正な分別やごみの減量を推進するため相談会を実施する考えである。

○沼ノ端クリーンセンターについて

- ・市内の子供たちに沼ノ端クリーンセンターを見学させてはどうか。

（減量対策課長）例年、市内全域の小学校が社会科見学のため当該施設を利用しており、厚真町や安平町の小学校から見学の申込みを受けている。

（2）「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」について

○周知方法について

- ・出前講座がとても良い。

- ・30代前後の若い世代の興味を引いていない。周知方法に問題があると思う。
(企業立地課長) 現在はPR活動をイベント会場、商業施設等において行っている。
　　今後は更にお祭り会場等でも活動を実施する予定である。

○クイズラリーについて

- ・どこで実施されているのか、分かりづらい。
(企業立地課長) クイズラリーの場所については、ポスターに掲載している。クイズラリーは公園敷地内の東西に2か所設置しており、付近に港を背にした顔出し撮影用の看板を配置しているので、それをヒントにぜひ探していただきたい。

○目的について

- ・大作戦の目標を「港に誇りを感じる事」だとしているが、その目的は何か。
(市長) 苫小牧の成長と発展を考えたとき、港と空港の「ダブルポート」の果たす役割が大きい。苫小牧港がまちづくりに果たしてきた役割とこれから果たすべき役割を広く知っていただく趣旨で、この大作戦を行っている。

市長との懇談会（第2回）

1 日 時 平成25年12月3日（火）午後3時～午後4時12分

2 場 所 市庁舎5階 第2応接室

3 出席者 市政レポーター 4人

4 主な意見

（1）「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」について

○港について

- ・港を衰退させないためには、大きな視点で行っていくことがより大事だから、多少、市民から遠ざかってもそちらの方に力点を置くべきなのかもしれない。
- ・周りの子育て世代の母親たちにとって港は「遊び場」というイメージである。
（市長）苫小牧にとって港がとても大切なものであることを広く知っていただき、触れていただく機会を作る趣旨で大作戦を行った。
- ・国際的な流通拠点として東港のコンテナ基地をますます発展させてはどうかと思う。
- ・国際的に比較すれば、空港と港が非常に近い所にあると分かった。
（市長）滑走路の3分の1は苫小牧に入っている意味で、苫小牧は空港の展開も含めてこれからのまちづくりに取り組んでいかなければならないと思っている。

○港でのイベントについて

- ・港に行くきっかけが少ない。何かイベントが毎年あればいいと思う。
（市長）今年キラキラ公園で開催したSea級グルメにおいて2日間で5万人を集客した。港の構造上、港に人が入れないために街なかで港まつりを実施しているが、キラキラ公園でイベントを開催できたことを踏まえ、今後、公園の活用方法が課題である。今年は港まつりとはすかつぽボートレース等のイベントを同時開催した。また、シャトルバスによるピストン輸送で2か所を往復できるように工夫した。
- ・小樽市等でイベントやコンサートを行っているが、苫小牧港でもできないか。
- ・夜のイカ釣り漁船の灯りが見事である。ふるさと海岸を大いに利用して海岸に親しみをもち、港を見てもらって、いろいろ考えてもらったほうが良いのかなと思う。
（市長）キラキラ公園とふるさと海岸の活用についての意見をいただいているので、これからいろいろ知恵を絞って、より多くの人が集える環境をどう作ったら

いいのかを考えていかなければならないと思っている。

○港の設備について

- ・東港、フェリーターミナル、キラキラ公園が非常に良くなった。
- ・漁港が広くなったことで、「こんないいところがあったんだ」と気付いた。
- ・キラキラ公園やふるさと海岸にきれいなトイレが整備されて気持ちが良い。
- ・工業港や漁港には金網フェンスが多く、市民と港との間に隔たりがある印象。

（市長）苫小牧港は工業港危険防止のため人の進入ができないような設計で作られた。ウォーターフロントという概念が欧米から入ってきて、港と市民とをいかに近づけるかということをして20年位前から取り組み始めているが、今も課題になっている。苫小牧も遅ればせながら、キラキラ公園やクルーズ船の岸壁を作ったり、フェリーターミナルを非常に斬新なものにしたりと取組をしている。国際港湾なので、東港全部と西港の一部がソーラス条約（海上における人命の安全のための国際条約）の対象岸壁になっていて、警備上、かなり金網が目立つ港になっている。

- ・港を一望できる所があればいいと思う。

（市長）タワーのようにはないが、キラキラ公園のすぐ近くに間もなく、埠頭会社さんが4階建で本社ビルを建てる予定がある。

○その他

- ・シンポジウムの中で、千歳空港と苫小牧港をどのような産業のPRの目玉にしていくのが極めて大事だと思った。

（市長）経済のパイの収縮が余儀なくされることを考えた時に、苫小牧は空港と港がすぐ近くにあるという立地の優位性をこれからどんどんアピールしていく必要がある。空港、港が近くにあるから、苫小牧に生産拠点を作った企業が圧倒的に多い環境を生かしながら、これから展開を考えていかなければならないと思っている。

- ・美術博物館での展示を見たが、今まで知っているようで全く知らなかったと感じた。子供向けのパネルも分かりやすく、すごく勉強になった。港を知らない若い世代は、もっとこういうものを見ていくほうが良いと思った。

（2）「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」について

○有料化後の取組について

- ・有料化までの啓発活動の勢いはすばらしかったが、有料化後はその時の何分の一の勢いなので、有料化後の問題が今ひとつ徹底されていない。
- ・分別方法を聞ける説明会をまた開いてほしいが、プレゼント付きでないと主婦は

来ないと思う。ごみ袋が一番うれしい。

（市長）1年間にいろいろ御意見があっても、春夏秋冬でごみの出る状況は違うため、ごみの量、リサイクルの動向、ステーション、分別の問題等を3か月ごとに内部的検証を行っている。したがって、1年間行ってから次の判断をしなければならないと思っている。また、分別を実践して、分からない部分をしっかりフォローしていくという意見は貴重なので、担当課とも協議しながら行っていくべきだと思う。

- ・有料化で以前より多少の収益が上がったとすれば、公園整備等、人の目に見える予算の付け方があればという気がする。

（市長）売上げは1年間行ってみないと分からないが、3、4億円と言われている。ごみの処理費用は30億円位なので、それで全部穴埋めすることはできないが、糸井や沼ノ端の焼却場にしても、毎年、億単位でメンテナンス費用をかけているので、そこに回して、一般会計で予算措置していたその分を別な形で使うようにしたらいいのではないかという御意見などをいただいている。丸一年、来年6月が終わったら、ごみ袋の収入の数字が出てくるので、それを見て判断していきたいと思う。

- ・札幌市で、ごみの重さを競うスポーツごみ拾いに参加した。区域やグループが分かれていて、そこで札幌市の分別について分かったし、すごく面白かった。企業も協賛していた。これを港等に絡めたら良いのではないかと思う。

市長との懇談会（第3回）

1 日 時 平成26年3月28日（金）午後3時～午後4時10分

2 場 所 市庁舎5階 第2応接室

3 出席者 市政レポーター2人

4 主な意見（一年間の活動の振り返りとして）

（1）「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」について

○評価

- ・市として熱心に取り組んでいた。
 - ・事業開始後の制度説明会等、フォローがタイムリーで良かった。
 - ・大きな事業としては、比較的スムーズに進んだ。
 - ・ごみステーションの管理について現在進行中の見直しに期待する。
- （清掃事業課長）ごみステーションについては、折りたたみステーションの普及を進めている。また、ごみを入れやすいステーションの置き方を様々に試みている。
- ・有料化によって、ごみのポイ捨てが増えることを心配していたが、パトロールのおかげか、ポイ捨てが減った。

○改善点の指摘

- ・ごみの分別方法が市民に行き渡っていない。
- ・ごみを透明又は半透明な袋に入れることが徹底されていない現状がある。
- ・ダンボールの出し方が、十分理解をされていない。地域における集団回収は、知っている人だけが利用している状況である。

（市長）現在進行中の取組であり、今後、よりよい仕組みを残していきたいと考えている。しかし、分別については、100パーセント徹底することは不可能と考えており、どうやって割り切りながら見ていくのかということも、大事と考えている。

（清掃事業課長）ダンボールの回収方法の周知が難しいと認識している。ごみの出し方の啓発と集団回収について、方法の検討を進める。

○意見

- ・市民にとって、ごみの有料化事業には、「協力している」という意識が強くある。そのため、協力に対する「見返り」を具現化することが大切だと思う。例えばごみステー

ションの補修をなるべく早く対応できる体制を作ることなど。

(市長) 有料化により市民に増えた負担に対して「バック」を明確に示すことは大事で、日頃から心掛けなければいけないことだと考える。

指摘の点については、時間をかけずに処置する仕組みをすぐに考えなければいけないと思う。例えば清掃業者に委託して写真機能付きの携帯電話を利用して連絡、連携できる仕組みなど。

(清掃事業課長) ごみステーションについては、清掃業者から情報が上がってきたものについては、すぐ交換したり、修繕したりしている。

ただ、約8,000か所あるステーション全ての情報が上がってくるわけではなく、全てタイムリーに対応できているわけではない現状がある。

- ・ごみの分別が徹底されていないことが気になる。
- ・きちんと分別されていなくても、やむを得ず回収されていることで悪循環になっているように思う。また、実際にパトロールしている場面を見たことがない。

(清掃事業課長) (不適正排出されたダンボールについて) ごみ収集時に「できません」とシールを貼って即時の回収を行わないが、水にぬれると溶ける材質のため、次回の回収時にも撤去されていなければ、回収する形を採っている。また、指導員が周囲の住民に啓発ビラを配布しているが、課題が残っていると認識している。

- ・ごみステーションが修繕されていないところが気になる。

(2)「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」について

○評価

- ・海王丸のイベントとSea級グルメを満喫できた。
- ・今回、苫小牧港がすごい港だと分かった。

○意見

- ・港へのアクセスが簡単でない。特に公共交通機関を利用する人にとってはなおさらである。
- ・市民の大勢が参加できるイベントが成立しにくいと思う。
- ・この大作戦が苫小牧港の現状を市民に周知する意図のものであることは理解しているが、それに加えて、港を造り上げた先人たちの苦労話などのエピソードを集めて記録に残しておく必要も感じる。

(市長) 現在、埠頭会社さんで苫小牧市や港管理組合も協力の下、北大の石井教授を中心に、港に係る文献に基づいて冊子を編さん中。

(企業立地課長) 今後、60周年、70周年に向けて収集していきたいと考えている。

・港に行く機会があまりなく、苫小牧市外の出身であることもあり、港についてもよく知らなかった。

・キラキラ公園ができたことで、港に行く機会ができた。

（企業立地課長）苫小牧港は工業港として発展してきたため、かねてからの「港から先は立入禁止」という印象が根強く残っている。

現在は、キラキラ公園の整備やクルーズ船の誘致を通して、市民の方に港の良さを知っていただくよう進めている。

・年少時から、港になじむ機会が多くあるといいと思う。

自分の周りの子育て世代の友人にも、特に他地方出身の場合は、港のことをよく知らないことが多い。

（企業立地課長）子供たちに港との関わりを学習してもらうため、『漫画（「苫小牧港歴史まんが 苫小牧港は未来への入り口！～Gateway to the future～」）』や『事典（「苫小牧港事典」）』を作成し、小学校3、4年生に配布したり、クイズラリーの実施やマツカワの放流を行ったりした。

レポーターからの意見と市の考え方（要旨）

●「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」についての意見

※5名からの意見を項目別に分けてまとめています。

○生ごみについての意見

・ごみの分別も浸透してきたので、そろそろ「生ごみ」の活用にも力を入れてみてはどうか。去年、堆肥化容器の助成を使って購入したが、うまくいかずにその後は使っていない。電動処理機の方が臭いも気にならず、確実に堆肥になるのではないかと思った。もっと堆肥化容器の説明や注意をしてくれる「説明会」等の開催をしないと、紙1枚での説明では不十分だと思います。

・電動処理機の貸出しは、いつどうやって申し込めばよいのか分からないという声と、申込みをしてもなかなか順番がこないという声を聞いた。これからは関心を持つ人が増えてくると思うので、台数を増やして貸出しをできるようにしてほしいのと同時に、高価な物なので助成金を増やしてもらおうと助かる。

・電動処理機等で作られた堆肥をリサイクルできる流れができればもっと良い。市でのリサイクルが難しければ、家庭と企業とのつながりを作って堆肥のリサイクルができればよい。せっかく作った堆肥をただ捨てるのはもったいない。

・生ごみ処理機を貸していただけるのは、とても良いと思います。人気があり、なかなかすぐには借りられませんでした。が、ごみの分別の中で一番重要な生ごみが少なくなるだけで、ごみ捨てる回数は減りますし、衛生的にもきれいで、一石二鳥でした。我が家も実際手放せなくなり、購入しました。しかし、予算の問題もありますが、助成が終了していたのには残念でした。屋外に置いて自然に任せるコンポストもありますが、苫小牧の夏は案外湿気があり、カビが生えやすく、冬は雪や寒さで維持していくのが実際困難だと言っていた友人もいました。来年度は、処理機の助成も増やしていただけると助かります。

<回答>

貴重な御意見をありがとうございます。生ごみ堆肥化容器の使用方法につきましては、購入助成申請時に使い方リーフレットの送付、購入助成1年後には対象者からアンケート調査で寄せられた使用方法のコツや御意見の送付を行うほか、ホームページの掲載などで使用方法の周知を行っておりますが、直接、相談をしたり説明を聞きたいとのご要望もあることから、今後、相談会を開催

し、継続して堆肥化に取り組んでいただけるよう支援してまいります。

電動生ごみ処理機の貸出につきましては、電話でお申し込みいただいた後に順番待ちで貸出を行っておりますが、待ち期間の解消や多くの方に使用していただけるよう貸出台数を開始時より増やして貸出をお受けしているところで

す。

これまでに約150世帯に申込をいただき順番に貸出を行っておりますが、貸出者にも非常に好評をいただいておりますので、今後も貸出事業を継続してまいります。

また、購入助成につきましても、電動生ごみ処理機の購入助成金の上限額を平成25年度から増額しておりますが、助成方法や助成数につきましても多くの市民が購入助成を受けられるように見直し、より一層の普及に努めて参ります。

○周知についての意見

- ・市長懇談の中で、「町内によって有料袋を使っていたり、いなかったりする」という「周知の問題」が大きく取り上げられた。ゴミの有料化は以前から準備期間を長くして、様々な角度から発信していたにも関わらず、市民全体へ知ってもらうことがとても困難である実態を知ることができた。

- ・ゴミ有料化に対して「周知の問題」自体には問題がなかったと思いますが、「ゴミ有料化」という言葉だけが先行して「何のため」に行うのか、ということが市民全体に伝わっていないのではないだろうかと考えます。「意義」や「目的」を丁寧過ぎると言われるほど相手に伝えなければ、それを行う人は主体的に取り組むことはないであろうと思います。

＜回答＞

貴重な御意見をありがとうございます。

市民周知につきましては、幅広く浸透させるためには今後も多方面への働きかけや集合住宅に居住されている方や若い方への対応が必要と考えております。今後も集合住宅の管理会社やオーナーさんを通しての啓発や出前講座を通して、職員が積極的にお伺いさせていただき、説明を行ってまいります。

また、家庭ごみ有料化は何のために行うかということですが、

家庭ごみ有料化には、①ごみ減量とリサイクル推進、②ごみ問題への意識向上、③ごみ処理費用の負担の公平化、という大きく3つの意義があります。

家庭ごみ有料化は、様々なごみ減量施策のうち有効な手段であり、その目的は、経済的な動機付けを活用して、大幅なごみ減量を達成することであり、平

成26年度までに

- ①1人1日当たりの家庭ごみ排出量を550グラムとすること
- ②リサイクル率を28%へ大幅に向上すること

を目標にしております。この目標が達成されますと、老朽化の進んでいる糸井清掃センターの廃炉を視野に入れた検討が可能となってまいります。この糸井清掃センターを建て替えた場合には、およそ50～60億円程度が必要と推計しており、廃炉となった場合には、年間2～3億程度の維持管理費も不要となってきます。ゼロごみ大作戦ステージ3の副題「次の世代のための一步を踏み出そう」にもありましたように、次の世代に借金を残さない為にも引き続きごみ減量とリサイクル推進に取り組んでまいります。

○不適正排出についての意見

・選別方法の不徹底、悪質な不法投棄等々、時間と根気を要しての回収作業には、頭の下がる思いでした。

・有料化から8か月を経過した現在も、誤ったごみの排出が行われていますが、格段に少なくなり、かなりの徹底が感じられます。

・ごみステーションへの不適正排出のパトロールはどの程度成果があったのか。助成金を出される割には効果が上がらないのではないか。

・作業者の手間が大変だろうが、回収時に不適正排出に対して指導ラベルを小まめに貼り付けし、いつまでも改善されない場合には、そのステーションの利用住民に相談できるような仕組みができれば良いのではないかと思います。

<回答>

ごみステーションへの不適正排出は、8月には、延べ1,465件ございましたが、ステーションパトロール隊による啓発活動などの効果により、12月には973件と減少傾向が見受けられます。

不適正排出の内容としては、誤った分別方法で排出していたり、指定ごみ袋で排出しないなどが多数を占めており、まだ一部の市民の方に制度が浸透していないという課題がございますが、他市の状況を見ても、制度が浸透するまで1年から1年半ほど時間を要したという話を聞きますので、今後も地区のステーションパトロール隊の方々にご協力いただきながら、改善して参りたいと思います。

また、誤った方法で排出されているものにつきましては、「収集できません」

というシールに収集できない理由を記載し、排出された方に正しい方法で排出し直していただけるよう、回収しないで数日置いておりますが、いつまでも放置されている場合は、市の指導員が開封調査し、排出者が特定できた場合は指導を行い、特定できなかった場合は、ごみステーションを利用されている方に啓発チラシをお配りしております。しかしながら、なかなか改善されない場合につきましては、折りたたみ式ごみステーションを導入するなどしており、都度、利用されている住民の方に御相談させていただいております。

○説明会についての意見

・新たに分別の疑問が出てきたこの時期に、各コミセン等で再び説明会が開かれていますが、タイムリーな説明会で、ごみ選別に対する意識が高まった人には、とても良いことだと思います。

・説明会に何度も足を運んだことで、ごみに対する意識が変わりました。今まで以上にリサイクルに真剣に向き合い、しっかり仕分けをしなければと思いました。そして、仕分けがきちんとできるようになるとうれしくなります。

<回答>

日々のごみ分別に御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。

ごみの分別については、今後も継続して丁寧な説明を心がけ、出前講座やイベント等の幅広い場面で、できるだけ多くの市民にお伝えし、啓発してまいりたいと思います。

○ゼロごみ大作戦～ステージ3～全体を通して

・「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」は、かなり大々的な取組を行った効果が出て、おおむね成功したのではないのでしょうか。関連した部署の方々の努力、御苦勞は大変だったことと拝察し、感謝しております。

・苫小牧市のごみ処理施設の老朽化問題や人口増加に伴うごみの量の増加、苫小牧市の借金を知り、子供たちの将来のためにはごみの量を少しでも減らして借金が残らないようにするには、仕方がないことで、スムーズに有料化に進めば良いなと思っていました。それともごみの分別の説明会等多く開催していただいたり、有料化に伴うイベントをいろいろな場所で長い間行ったりされたおかげではないのかなと思います。

市政モニターの皆さまには、「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」の実施に際しまして、「市民説明会」「新たな分別体験モニタリング」「各種拠点回収」「電動

生ごみ処理機貸出」「自然と環境にやさしいまちづくりのためのシンポジウム」などの多数の事業に、御参加、御協力をいただきまして誠にありがとうございました。

おかげさまで家庭ごみ有料化や紙類の資源化も予定通り開始され、現在のところ順調にごみ減量及び資源物の増が図られ、1人1日当たりの家庭ごみ排出量も、平成26年度の目標値である550グラムに近い値で推移してきております。

終了した各事業につきましては、それぞれの成果を感じているところでございます。今後もごみ分別に関する市民周知・ごみ減量やリサイクルへの取組推進・不法投棄・不適正排出の防止・環境教育の推進に向けて事業を展開してまいります。

市ではごみ減量やリサイクルの推進、まちの環境美化への取り組みは大作戦だけで終わるものではなく、継続して取り組んでいかなければならないものと考えております。今後も、市政モニターの皆さまから頂戴した貴重な御意見を参考にするとともに、説明会等でいただいた市民の皆さまの声に耳を傾けながら、引き続き「053(ゼロごみ)のまち とまこまい」を目指すため、ごみの減量とリサイクルの推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後もより一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

○今後について

・「053(ゼロごみ)のまち とまこまい」を目指すことを考えると、ごみ減量で削減された予算で、ゴミステーションの整備、統一化等も検討していただきたい。様々な収納箱、覆い網の破れ等々、美観を損ねるものが目に付きます。市民にはごみ減量に協力しているという気持ちがあるので、見返りとして、地域の美観向上等、目に見えて良くなることがあると、協力のしがいもある。更に遊歩道や公園等の整備が進むと、ゼロごみに対する意識は高まっていくものと考えられます。きれいに清掃された所にごみは捨てにくいものです。

・岩倉市長との懇談で、「糸井ゴミ処理場の処理費用を削減し、将来的には廃止して次の世代の人たちに借金を残したくない。だからゴミを減らしたいんだ！」というゼロごみ大作戦に対しての熱い思いを感じることができました。これまでも市長はあらゆる場面でゼロごみに対して語っていると思いますが、これからも語っていただきたいと願います。

・折りたたみ式のごみステーションをなかなか見かけないので、少しずつ増やしていくと、キレイな苫小牧市を維持しやすいと感じました。

・多くの人が利用している公園のトイレ、バス停留所等のタバコ、紙くず等、利用者のマナーが気になります。

＜回答＞

日々のごみ分別や排出マナーの向上に御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。

家庭ごみ有料化に伴う手数料収入の使い道として、紙類やせん定枝の分別収集や集団回収奨励金、コンポストや電動生ごみ処理機などの購入助成といった新たな分別の開始と市民の取り組みへの支援のほか、ごみステーション問題の改善や排出マナーの向上、環境教育などにも活用されます。

折りたたみ式ごみステーションは、1月末現在で、市内に296基設置しております。排出マナーの悪いステーションやカラス被害の多いステーションから順次、住民の理解を得ながら協議して設置を進めており、平成26年度以降も継続して普及に努めてまいります。

また、既存のごみステーションのあり方について検討を進めるとともに、ばい捨て防止条例の見直しを含め、環境美化に努めてまいりたいと考えております。

●「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」について

※5名からの意見を項目別に分けてまとめています。

○イベント等についての意見

感想

・イベントでもっともインパクトがあったのは、海王丸の入港とSea級グルメで、自家用車の持たない者には、この時のバス運行は非常に助かった。

意見

・開港50周年記念シンポジウムでは、苫小牧港の好立地条件に加えて、千歳空港が近いことで、今後空港とどう向き合っていくかが課題というのはうなずけた。また、新グローバル化が進む中、アジアにおけるサプライチェーンの見直しとして、サッカー方式に変えるという意見は重要なことと思われ、エネルギー拠点として更に重要視されることと思います。

提言

・開港50周年記念企画展「夢を形に」では、開港への道のりの中で、築港余話や先人の思い等を多くの市民に知ってもらう工夫が必要ではなかっただろうか。

いただいた御意見につきましては、今後、港に関する啓発活動の取組等の中で取り上げていきたいと考えております。

感想

・海王丸の寄港やSea級グルメ・美術博物館の企画によって苫小牧港がどれだけすごい役割があるのかを知ることができた。

要望

・港でのイベントも盛り上がり、多くの市民の関心が港に向いたのではないのでしょうか。Sea級グルメも毎年の行事にしてほしい。

Sea級グルメの全国大会につきましては、全国のみなとオアシスが加盟するみなとオアシス全国協議会を運営するウォーターフロント協会で決定し、全国各地で開催されますことから、苫小牧での毎年開催は難しい状況です。

キラキラ公園では、例年、市民みなと写生会、みなとウォーク、みなとフェスティバルなどが開催されており、港の賑わい創出に向けて、新たなイベントについて関係団体が検討を行っているところですので、御理解をお願い致します。

要望

・苫小牧市の東地区を中心に北海道以外から転入される方が増えるとともに港をよく知

らない親が増えて、子供にも港について教えることは難しい。未来の苫小牧市の資源となる様に行っているのであれば、小学生より下の幼児から港に自然と接する機会がなければ難しいのではないかと思います。フェリー見学会やSea級グルメの様なイベントは毎年行った方がいいと思います。フェリー見学会は予算の問題もあるかとは思いますが、乗り物好きの男の子はもちろん、小さな女の子でも港に行くきっかけになると思うし、小学生ならフェリーから港への興味を持ち、友達と話すきっかけにもなると思います。Sea級グルメも、例え食べ物目当ての子供でも港で何らかのイベントを行うことによって、実際に港を見たり、去年は海王丸を見たら「乗ってみたい」、「すごい!」と感じたりするだけでも良いと思います。港まつりが港で行われない分、どんな形であれ、港でのファミリー向けのイベントを続けていただきたいと思います。

次の世代を担う子供達に港の重要性を広報・啓発することは大変重要なことと認識しております。出前講座などを通じて子供達に対する啓発に努めて参りたいと考えております。

イベントの開催につきましては、前段でも触れておりますが、関係団体間で検討を行っているところでございますので、御理解をお願い致します。

感想

・無理にではなく、自分の子供にも何らかのイベントをきっかけにして港へ行き、話すきっかけを作って、港がすごいことを教えていきたいなと思えました。

要望

・イベントとして「ふるさと海岸ごみ拾い大作戦」をウォーキングクラブや学校、町内会等に呼びかけて行ってほしい。

例年、行政、企業、町内会、学校、各種団体など、おおよそ30の団体の方々が海岸清掃に御協力いただいているところです。今後もこのような取組の輪が広がっていくよう、広報にも努めてまいりたいと考えております。

○キラキラ公園等についての意見

提言

・キラキラ公園の設備が整い始めてきていますが、将来的にはキラキラ公園にて野外コンサート等も開いていただいて、キラキラ公園を中心に港に触れる機会が増えればよいと思います。

キラキラ公園での新たなイベントについて関係団体が検討を行っているところでもございますので、御理解をお願い致します。

提言

・港を市民に身近に感じさせるには、公共交通手段による港へのアクセスの便利さも考えられなくてはならない課題と思われる。

要望

・市民にとって身近な港にするためには、「ふるさと海岸」を潮干狩りでもできるような浜辺にする工夫や、港を一望できる展望台を「キラキラ公園」に建てる等の積極的な事業展開を希望します。

要望

・キラキラ公園にもう少し遊具が欲しい、お店があったら良い。

提言

・幼児期から自然と港に触れていれば、小学生になってからの出前講座も楽しく聞けるし、大人になってからも子供に港を体験させたいと思えると思います。

要望

・ふるさと海岸を立派に造成していますが、利用者が少ないように見えます。特に子供たちには、自然が必要です。波が荒い、水が汚れている等問題はあると思いますが、健康でたくましい子供にするためには、水に近づいて波と戯れるような、ふるさと海岸にしてほしい。

前5問を一括回答

【交通利便性について】

より多くの市民に港へ足を運んでいただくため、交通機関の利便性向上については、重要と認識しておりますが、民間事業者における採算性の課題などもございます。大きなイベント開催時などにはシャトルバスの運行などを検討してまいりたいと考えております。

【ふるさと海岸について】

ふるさと海岸の利用につきまして、安全面の問題から遊泳禁止で、波打ち際での水遊び程度の御利用となっておりますので、御理解願います。

昨年トイレを整備し、より利用しやすい環境づくりを進めておりますが、市民の憩いの場として多くの方が訪れていただけるよう、周知も含め取り組んでまいります。

【キラキラ公園について】

港を一望できる展望台の設置につきましては、港に多くの方が訪れていただく上で呼び水となりうると考えますが、費用面、管理面などの課題等があり、現状では難しいものと考えておりますので、何卒御理解願います。また、キラキラ公園でのお店につきましては、軽食などの販売許可条件などを整理してまいります。

○苦小牧港辞典等についての意見

意見

・苦小牧港辞典等に、もっと開港までに関わった人々の話を載せていただきかった。

要望

・小学生向けに作成された「苦小牧港歴史まんが」は大変に読みやすく分かりやすかったです。小学生のみならず企業等にもどんどん配布して、苦小牧の魅力を発信していただきたい。

先人の苦労話等は、御指摘のとおりと考えております。今後、同様の機会があった際には改善してまいります。

苦小牧港の魅力を発信については、大作戦の終了後も引き続き実施していきたいと考えており、機会を捉えてPRに努めてまいります。

○未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～全体を通して

意見

・大作戦では、もう少しどのような経過で港ができ上がったのかを苦労話やエピソードを交えて市民に知ってもらうようにしてはと思った。

意見

・港の成長とともに人口が伸びていることを知り、街の発展のためには港の発展が何よりも重要であることを学びました。

意見

・大作戦によって、苦小牧の魅力や誇りを感じることができた。

平成 2 5 年度市政レポーター名簿

(5 0 音順、敬称略)

	氏 名	選任区分
1	内 海 泰 満	公 募
2	緒 方 共	
3	斉 藤 勇 作	
4	佐 藤 光 夫	
5	丹 波 有 子	

任期：平成 2 5 年 5 月 1 日から平成 2 6 年 3 月 3 1 日まで

苫小牧市市政レポーター設置要綱

(目的)

第1条 市政の重要な取組について、広く市民の参加を求めて理解を深めるとともに、意見、提案等を聴取し、市政運営の参考に資することを目的として、苫小牧市市政レポーター（以下「レポーター」という。）を設置する。

(職務)

第2条 レポーターの職務は、次のとおりとする。

- (1) 市政の特定事項に関する事業に積極的に参加し、意見、提案等を行うこと。
- (2) 市長懇談会や必要な会議等に参加すること。
- (3) その他、市長が必要と認めること。

(資格)

第3条 レポーターは、市内に住所を有し、市政に対する理解と協力の意思がある18歳以上の者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当するものを除く。

- (1) 高校生または高等専門学校3年生以下の者
- (2) 地方公共団体の議会議員
- (3) 公務員
- (4) 市政モニターを含めて、レポーターの経験が2期を超える者。

(定数)

第4条 レポーターの定数は、10人以内とする。なお、欠員が生じたときは補充しない。

(任期)

第5条 レポーターの任期は1年（委嘱の日から翌年3月末日まで）とする。

(委嘱)

第6条 レポーターは、公募に応じた者の中から、年齢、性別、地域、職業等を考慮し適当と認める者を選出し、市長が委嘱する。

(委嘱の取消)

第7条 市長は、レポーターが次の各号のいずれかに該当するときは委嘱を取り消すことができ

る。

- (1) 市内に住所を有しなくなったとき。
- (2) 第3条第2号から第4号のいずれかに該当することになったとき。
- (3) 辞任の申し出があったとき。
- (4) 前各号のほか、市長が取り消しの必要があると認めたとき。

(謝礼)

第8条 レポーターの職務を遂行した者には、年間5,000円の謝礼金を支払うものとする。

(意見等に関する処理)

第9条 レポーターから提出された意見、提案等は、担当部課へ回付し、検討のうえ市政運営の参考に資するとともに、活動報告書として取りまとめ、市のホームページ等で公開する。

(事務局)

第10条 レポーターに関する事務は、総合政策部政策推進室市民自治推進課において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、レポーターに関し必要な事項は、そのつど市長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 苫小牧市市政モニター設置要綱（平成18年4月1日改正）を廃止する。